



〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
<http://www.ocha.ac.jp/>

学生主体の新しい学士課程の創成
<http://www.ocha.ac.jp/nsep/>

複数プログラム選択履修制度
<http://www.ocha.ac.jp/nsep/popp/>

複数プログラム 選択履修制度

～学生主体の新しい学士課程の創成～



お茶大型学士課程

お茶大型
新しい学士課程

文理融合
リベラルアーツ

+

専門教育
複数プログラム選択履修制度

お茶の水女子大学では、教養と専門性を備え、自主自立の精神に富んだ女性リーダーを育成する学士課程教育を推進しています。

キーワードは、深い専門性と幅広い教養の育成、各人の〈主体的な学び〉の構築です。

皆さんは、大学の専門教育と聞くと、どういうことをイメージするでしょうか。「大学とは、世界を成り立たせているさまざまな仕組みを学術的で専門的な方法で研究するところだ。だから、大学の専門教育も深い学問に根差した知識や技能の基礎を教えるはずだ。」たぶん、このようなイメージではないでしょうか。もちろん、深い学問的な知識や技術はとても大切なものです。けれども、お茶の水女子大学で学びたいと思っている皆さんの中には、深く専門的な知識を学びたいと考えている人ばかりではないでしょう。将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技

能を身につけたいと考えている人や、分野を横断した最先端の学問領域や、国際理解を深めたいと考える人もいることでしょう。

一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応する専門教育課程の構築—こうしたみなさんの願いを実現するのが、お茶の水女子大学が始める「複数プログラム選択型」の専門教育課程です。下の図は、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」(別冊パンフレット参照)教育を基礎とする広い視野のもとに、基礎と専門を歯車のように連携してこの目標を構築させる関係を表しています。

教育改革の方向性
学生主体の新しい学士課程の創成

- 高度教養教育
- 課題解決能力
- 領域横断的視野
- 論理的思考力

● 外国語教育
● 情報
● スポーツ健康
などの
コア科目

21世紀型文理融合
リベラルアーツ
(H20年度導入)

- 表現力
- 国際的発信能力の育成

- 専門を深める
- 異なる専門へと発展させる
- 学際領域へと踏み込む

複数プログラム
選択型専門教育
(H23年度導入)

21世紀型文理融合リベラルアーツ教育を踏まえた高度な専門基礎教育

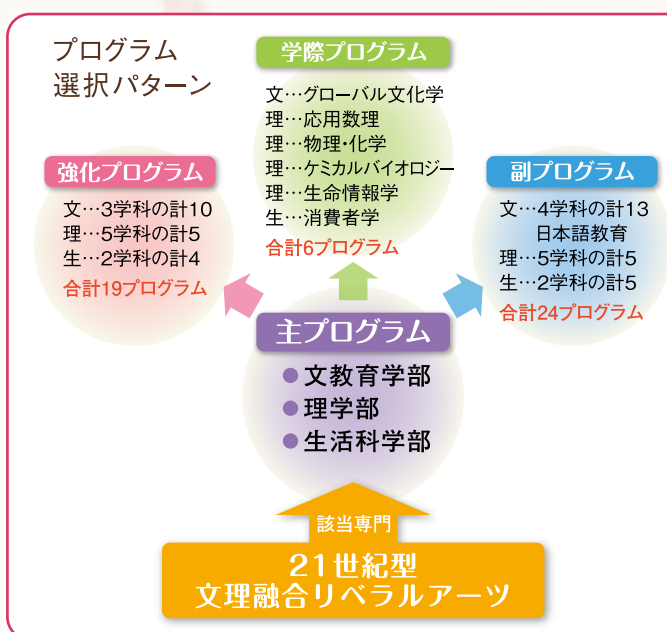
主体的に自らの学修プロセスを構築できる専門教育課程

「複数プログラム選択履修制度」

複数プログラム選択履修制度で自由な学び
高度な専門性と幅広い見識を育む主体的な学修プロセスの構築

多様で主体的な学びの構築へ—
プログラムの組み合わせを選ぶ皆さんが主人公です。

専門教育課程の構築に先立ち、お茶の水女子大学は21世紀型リベラルアーツを発信し、基礎となる講義や演習に参加することにより、1年生から広い視野から多角的に世界にかかわる問題を学ぶことができます。このリベラルアーツ教育に接続される新しい専門教育課程は、専門的な知識や技能の基礎を学ぶ「主プログラム」、専門分野に特化した深い専門性を培う「強化プログラム」、皆さんが専攻した分野とは異なる科目を学ぶ「副プログラム」、さまざまな分野を融合する最先端の学際型の知識や技能を学ぶ「学際プログラム」の4種類から成り立っています。そして、皆さんは、自分のニーズに合わせて、この4つのプログラムを自由に結びつけることができます。ですから、「複数プログラム選択型」の専門教育の主人公は、皆さん自身です。この専門教育課程を生き生きと意欲的に自分でレイアウトしていくとき、皆さんは、深い専門性と幅広い教養を備えた自主・自律の精神に富む女性として社会に羽ばたいていけるはず。右の図は、多様な学びを可能にする3方向のプログラム選択パターンについて紹介したイメージです。



きめ細やかな学修支援体制—
主体的な学習プロセスの構築をサポートします。

「何を学ぶのかを決めるのは皆さんですよ」と言われても、私にできるかどうかと不安になる人もいるかもしれません。たしかに、「複数プログラム選択型」専門教育課程は、今までの大学教育と比べても、学ぶ皆さんの自由度が高いことに特徴があります。でも大丈夫です。お茶の水女子大学は、これまで以上にきめ細やかな学修支援体制を整備するため、総合学修支援センターを設置して、専門のスタッフが情報関連機器を活用しながら皆さんの主体的な学び

をサポートする準備を整えています。ですから、困ったときや迷ったときには、安心してサポートを受けることができるようになっています。また、それぞれのプログラムを構成している科目に、学修の順序性や難易度を表す色分けによるカラーコードをつけます。これにより、カリキュラムの構造を視覚的に把握できるようになり、プログラムを選択するときに、どのような順番と組み合わせで各科目を履修すればいいのか判断しやすくなります。

主体的にキャリア形成する学びへ

複数プログラム選択履修制度の履修方法

あなた自身が主体的に学修プロセスを構築し、深い専門性と幅広い教養を兼ね備えた自主自律の精神に富む女性になるための教育——それが「複数プログラム選択履修制度」です。

第1のプログラム

必修

趣旨
各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラム

選択条件
所属学科の開設するプログラムから選択すること

開設プログラム

- ◆文教育学部
 - ◎人文科学科
哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学
 - ◎言語文化学科
日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化
 - ◎人間社会科学科
社会学、教育学、心理学
 - ◎グローバル文化学環
グローバル文化学
- ◆理学部
 - ◎数学科
数学
 - ◎物理学科
物理学
 - ◎化学科
化学
 - ◎生物学科
生物学
 - ◎情報科学科
情報科学
- ◆生活科学部
 - ◎人間・環境科学科
人間・環境科学
 - ◎人間生活学科
発達臨床心理学、生活社会科学、生活文化学

※1:グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと、所属学科のいずれかのコースの提供する副プログラムを履修します。

第2のプログラム

以下のプログラムから
選択必修

強化プログラム

趣旨
各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラム

選択条件
同一名の主プログラムを履修していること

開設プログラム
主プログラムと同じ
(グローバル文化学は除く)

副プログラム

趣旨
学生の多様な能力・適性および学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学修機会を提供するためのプログラム

選択条件
所属学科の開設するプログラムから選択すること。ただし、主プログラムと同じプログラムを履修することはできない

開設プログラム

- ◆文教育学部
哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学、日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化、日本語教育、社会学、教育学、心理学(A・B)、舞踊教育学、音楽表現
- ◆理学部
数学、物理学、化学、生物学、情報科学
- ◆生活科学部
人間・環境科学、発達臨床心理学、公共政策論、ジェンダー論、生活文化学

学際プログラム

趣旨
新たな領域融合型ないし学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人材養成に対応するプログラム

選択条件
所属学科の開設するプログラムから選択すること

開設プログラム

- ◆文教育学部 ※()は提供学科
- ◎グローバル文化学 (文教育学部グローバル文化学環)
- ◆理学部
 - ◎応用数理 (理学部数学科、物理学科、情報科学科)
 - ◎物理・化学 (理学部物理学科、化学科)
 - ◎ケミカルバイオロジー (理学部化学科、生物学科)
 - ◎生命情報学 (理学部生物学科、化学科、情報科学科)
- ◆生活科学部
 - ◎消費者学 (生活科学部人間生活学科)

第3のプログラム

選択

副プログラム

選択条件
他学部プログラムも自由に選択できる

開設プログラム
左の表(第2のプログラム)を参照

学際プログラム

選択条件
他学部プログラムも自由に選択できる。ただし、理系学科提供のプログラムを、文系学科所属の学生が履修することはできない

開設プログラム
左の表(第2のプログラム)を参照

※2:文教育学部芸術・表現行動学科は、複数プログラム選択履修制度とは異なる専門教育カリキュラムに従って学修します。なお、芸術・表現行動学科で学んでいても、ニーズに応じて副・学際プログラムを選択することができます。

※3:生活科学部食物栄養学科は、複数プログラム選択履修制度とは異なる専門教育カリキュラムに従って学修します。なお、食物栄養学科で学んでいても、ニーズに応じて副・学際プログラムを選択することができます。

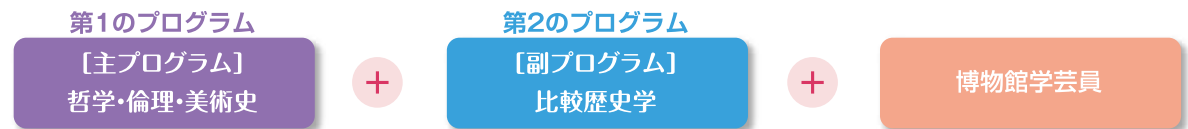
学部別に将来を見据えた履修プランのモデルケースです。

複数プログラム選択履修制度なら、幅広い教養や深い専門性など、将来の目的に合わせて自分だけのプログラムを構築できます。

主プログラム + 強化プログラム の組み合わせを基本に、
下記のような多様な選択が可能となります。

文教育学部

A パターン
私は学芸員として博物館資料の調査研究に携わりたいと考えています。主プログラムで美術史を専攻すると同時に、比較歴史学コースを副プログラムとして選択することで、文化、歴史について幅広く学び、かつ学芸員資格を取得して将来に備えようと思っています。

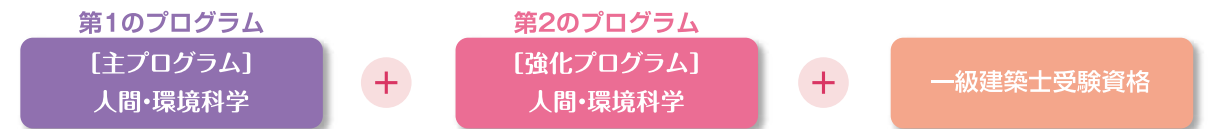


B パターン
心理学について深く学ぶだけでなく、副プログラムとして発達臨床心理学を選択し、心理学における実践的な分野も強化したいと考えています。社会調査士の資格を取得し、調査やデータ分析についても計画実施する能力を身につけたいです。



生活科学部

A パターン
建築士になりたい私は、一級建築士受験資格の取得を目指します。人間・環境科学科で人間と環境とのかかわりを深く学び、将来、行政の仕事などで「暮らしと環境の調和」を目指した社会インフラを提案できるよう、より専門的な科目も履修していきます。



B パターン
消費者問題に関心があり、公務員としてその仕組みづくりに関わるか、企業のお客室相談室などに勤務したいと考えています。まず、生活社会科学講座の「主プログラム」で社会科学の基礎的な考え方を学び、消費者学「学際プログラム」で消費生活アドバイザーの資格取得に必要な科目を履修します。さらに、教育科学の「副プログラム」を選択し、消費者教育という視点からも考えることのできる力を養いたいと思います。



理学部

A パターン
将来は高校の生物の先生として活躍したい私は、生物学を重点的に学びたいので、教員免許取得課程と共に生物学科の「主+強化プログラム」を選択する予定です。最先端の生物学の研究を行った経験を生かしたいので、大学院を修了した後に教職につきたいと思っています。



B パターン
生命のしくみについて関心があるので、生物学科で基礎的な生物学の知識を学び、その後ケミカルバイオロジー学際プログラムでより広い視点から発展的に生物の構造やその働きを深く学ぶ予定です。将来は自然科学系の博物館学芸員として、社会教育においてこの分野のおもしろさをわかりやすく市民に伝えたいです。



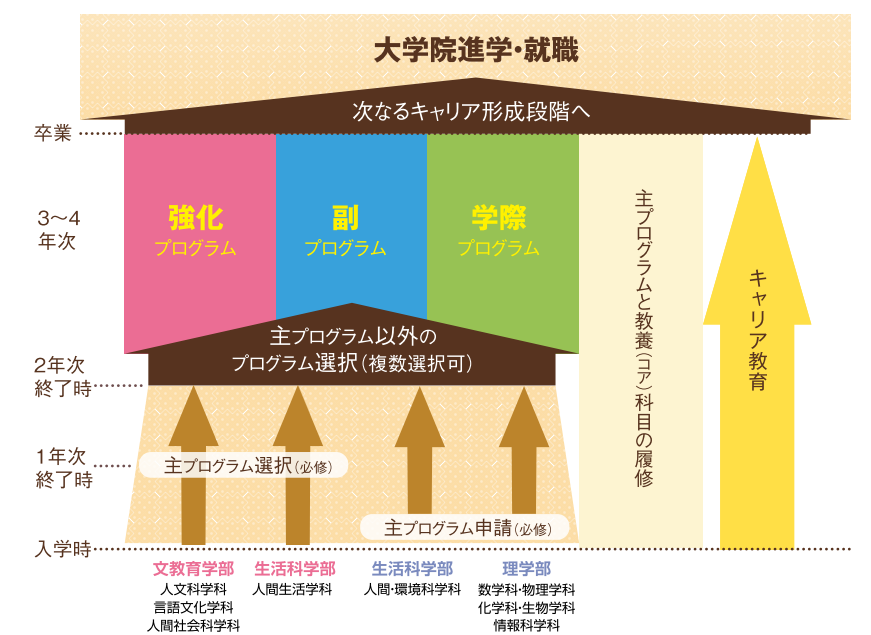
プログラム選択時期

文教育学部と生活科学部の文系

- ◎「主プログラム」の選択は1年次終了時
- ◎「主プログラム」以外のプログラムの選択は、2年次終了時以降

理学部と生活科学部の人間・環境科学科

- ◎「主プログラム」の申請は入学時
- ◎「主プログラム」以外のプログラムの選択は、2年次終了時以降



★履修についての詳細は <http://www.ocha.ac.jp/nsep/> で確認できます。

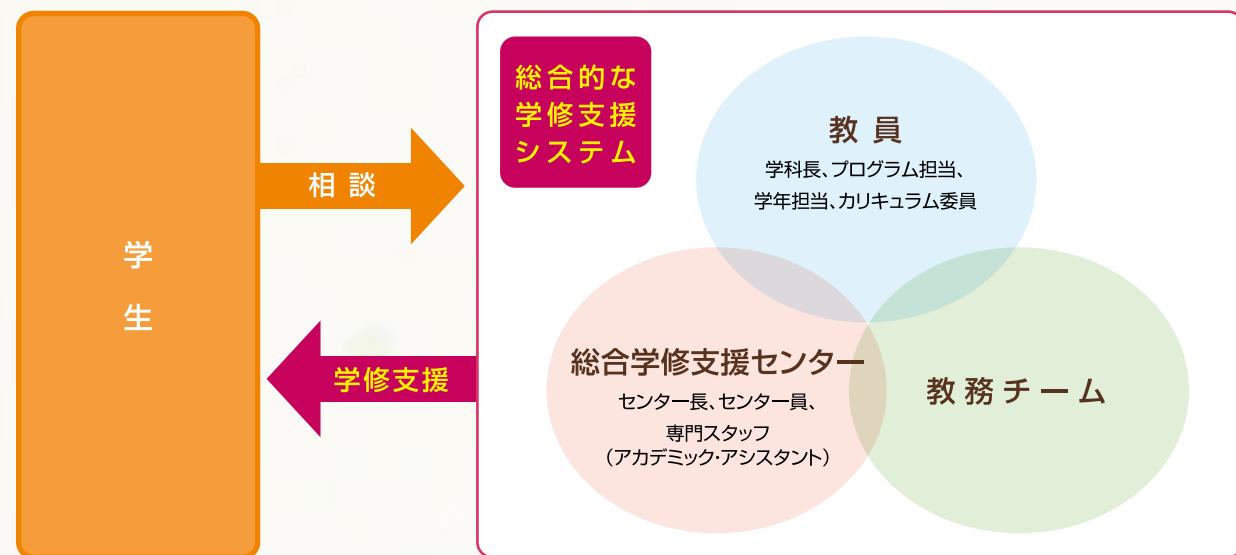
総合学修支援センター

Learning Support Center

お茶大型の専門教育「複数プログラム選択履修制度」を、総合学修支援センターで全面的にサポートします。

組織の概要

学内共同教育研究施設として、総合的な学修相談の支援を行い、
本学の教育活動に資することを目的としています。



相談できること

教職員や専門のスタッフに、複数プログラム選択履修に関する様々な相談ができます。

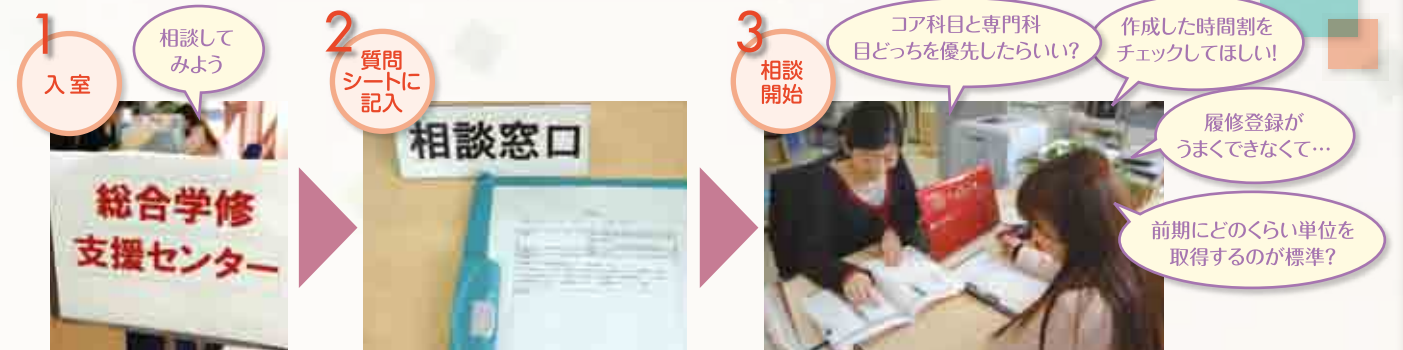
プログラム選択前の相談

- どんなプログラムがあるか
- 履修シミュレーション
- 履修方法について
- 履修登録について

プログラム履修中の相談

- 科目履修取消しについて
- プログラムの変更について
- 成績評価(GPA制度)について
- 各種学修支援システムの使い方について
- 資格取得について(教職課程・学芸員など)

総合学修支援センターってどんなところ?



- ★履修や学修の相談は、友達と一緒にでも、もちろん個別でも、直接センターに立ち寄って、自由に相談できます。
- ★相談に予約は必要ありませんが、お昼休みや午後の授業の後などは、混雑することもありますので、時間の余裕がある時におこしください。
- ★あなたの学修相談への回答はもちろん、解決のための問い合わせ先も案内します。

総合学修支援センターを利用した学生の声

初めて自分の時間割を自分で決めなくてはならず、色々不安が多かったので、相談できる人がいてよかった。
(生活科学部)

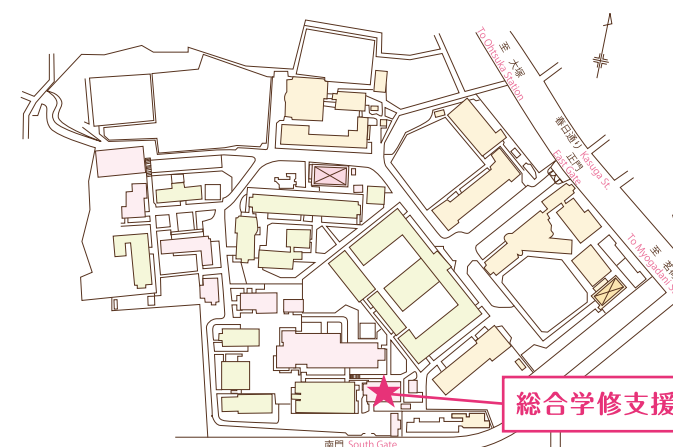
履修登録で不明な点があったので質問しに行きました。確か、コア科目と学科共通のバランスについてだったと思います。
(文教育学部)

特に1年生は最初とても不安なので、わからないことをすぐ聞ける場所があるのはいいと思う。
(生活科学部)

どんな質問にも対応してくれてありがたかったです。
(理学部)

スタッフの方がとても丁寧に対応してくださり、大変たすかりました。
(理学部)

時間割の立て方についての質問ができました。
(理学部)



場所：学生センター棟 1階(教務チーム内)
電話：03-5978-2047
E-mail：l-sc@cc.ocha.ac.jp

※都合により開室していない場合もあります。
長期休業期間を含む休業日は、学生ポータルサイトでお知らせしますので、確認してください。

「複数プログラム選択履修制度」に関する



複数プログラム選択に関しての



Q 自分の入学した学部・学科以外のプログラムも選択できますか？

A 選択できます。第1プログラムと第2のプログラムは入学した学部の提供するものから選択しなければいけません。第3のプログラムは、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択できます。ただし、選択できるプログラムは、所属によって異なります。

Q 自分の入学した学部・学科以外の科目も履修できますか？

A 履修できます。入門的な内容のものであれば、科目単位で履修が認められる場合が多いです。

Q 自分の入学した学部・学科以外の学位を取得できますか？

A できません。自分の所属している学部・学科の主プログラムと、所属学部から選択する第2のプログラムの履修が、学位を取得するための必修プログラムとなっています。

Q プログラムは何個でも選択することができますか？

A プログラムの選択は3つまでです。授業の予習・復習の時間を考慮すると、物理的に3つ以上を選択することは難しいからです。特に理系の学生は、実験に費やす時間が必要なため、学科によっては、第3のプログラムを選択できないということも有り得ます。

Q 各プログラムは自由に選択できるのですか？

A 主プログラムは、自分の入学した学科が提供するプログラムを選択します。これは必修です。文教育学部全学科と生活学部人間生活科は、学科が複数のプログラムを提供しており、履修人数については、教員の指導上、ゆるやかな制限があります。強化プログラムは、主プログラムと同じコースあるいは講座のものを選択します。副プログラムは、主プログラムと同じコースあるいは講座のものは、選択できません。ただし、グローバル文化学環の学生は、所属する学科の提供する副プログラムの履修を必修とします。学際プログラムの内、理学部が提供する4プログラム(応用数理、物理・化学、ケミカルバイオロジー、生命情報学)については、理系の学生(理学部全学科と生活学部食物栄養学科、人間・環境科学科)のみ選択できます。

「複数プログラム選択履修制度 WEBサイト」(<http://www.ocha.ac.jp/nsep/popp/>)の「Q&A」に詳細がありますので、ご覧ください。

履修スケジュールに関しての



Q 複数プログラムを選択する時期はいつですか？

A 主プログラムについて、理系は、入学時点で申請します。文系は、1年次終了時(1月頃)にWeb申請し、申請者数(第一希望者の数)が受け入れ上限数を下回っている場合は、そのまま決定します。受け入れ上限数を上回っている場合は、当該主プログラム提供コース・講座において選考します。第2のプログラムは、文系理系とも2年次終了時に、Webにより申請します。第3のプログラムは、2年次終了以降、Web申請可能です。

Q 一年次はどれくらい単位を修得すればよいのですか？

A 教職や資格取得を希望しなければ、週12コマ前後になります。ただし、各授業の学修時間の確保や内容理解、評価も重要なので、余裕をもって履修できるかどうか検討してください。

Q 複数の資格を取得することは可能ですか？

A 希望するすべての資格を4年間で取得できるわけではありません。時間割の制約がありますので、狙いを絞って履修計画を立ててください。

Q 履修したい科目の対象学年が自分の学年とは異なるのですが、履修できますか？

A 対象学年は目安であって、「この学年以上で履修可能」という意味です。対象学年が自分の学年よりも上の場合、担当教員に確認したうえで、履修可能となることもあります。

Q 来年度以降の開講授業が分からないので、卒業に必要な単位が足りるかどうか不安です。

A 来年度以降の時間割については確定していない部分が多いですが、その学年で取れる必修の授業やコア科目を優先して履修していけば、卒業単位、資格取得の単位を十分に満たせるように時間割は組まれています。